

**MINATOビジョン・タウンフォーラム**  
**教育グループ（第7グループ）**

**会議録（第2回）**

■開催日時・場所・出席者

日 時 : 令和7年9月5日(金)18時30分～20時30分

会 場 : リーブラ

メンバー: 14名(欠席者2名)

【内訳】対面参加: 11名、オンライン参加3名

事務局 : 企画課グループ担当3名、サポートメンバー2名、教育委員会所管課長7名、  
委託事業者3名(うちファシリテーター1名、グラフィックレコーダー1名)

■次第

( 開 会 )

- 1 事務局より連絡
  - ・所管課長紹介等
- 2 検討テーマに関する議論
  - ・2040年の港区のうれしい姿・避けたい姿
  - ・2040年から2025年の港区民へのメッセージ
- 3 事務局より連絡
  - ・次回案内等

( 閉 会 )

■配付資料

- 資料1 第2回グループ会議進行資料  
資料2 第3回グループ会議に向けて  
資料3 第1回会議録

■貸与資料

なし

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第2回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言が行われた。

- 1 事務局より連絡
  - 所管課長が紹介された。

## 2 検討テーマに関する議論

ファシリテーターより、グループワークの進め方、ねらいについて説明が行われた。ラウンドごとの意見を付箋に書き出して意見を発表しながら、模造紙上で意見を分類分けした。練習フェーズを実施せず、参加者が意見について議論する時間を多く設けることとした。

### (1)第1ラウンド 2040年の港区のうれしい姿・避けたい姿

(主な意見等)

事務局：類似の意見がある場合は、関連する付箋の近くにまとめて貼り付けるようにする。

参加者：うれしい姿として、「飛び級が認められる」「能力でクラスを分けない」。

参加者：うれしい姿として、「オンライン授業が普及し通学の必要なし」「通学の時間が減る」「質の向上」「開かれた学校」「電子化が進み、手ぶらで登校できる学校」

参加者：うれしい姿として、「子どもが楽しいと感じている」「港区の歴史が残されている」「対面で授業を受けられる」「ペーパーレス化」「寺院が残されている」「伝統文化が残されている」「子どもが多い」。

参加者：うれしい姿として、「日本人の気概を身につける子どもの増加」「日本の歴史を誇れる人の増加」「国旗を掲げることが当たり前になる」「日本を誇りに思う」。

参加者：避けたい姿として、「日本の歴史を恥と思う人の増加」「日本の道徳が廃れる」「英語は得意だが、古文漢文を読めない人の増加」「日本の歌、文部科学省歌を知らない世代の増加」「本を読まずにメディアに偏った教育」「欧米の文化を批判できない人の増加」。

参加者：うれしい姿として、「第六感が開花して動物と話せるようになる」。

参加者：うれしい姿として、「どこでも授業を受けられる」。

参加者：うれしい姿として、「不登校の子どもがいなくなる」「18歳以下の子どもの自殺がなくなっている」。

参加者：うれしい姿として、「学びは遊びに進化して、誰もが楽しめるようになる」「教育で保護者が自分だけで悩んでいることがなくなる」「教育職が大人気になる」「いじめという言葉が聞かなくなる」「暴力が人権侵害としてみなされ、発生数が激減する」。

参加者：うれしい姿として、「子どもたち自身で問題を解決する機会を提供する」。

参加者：うれしい姿として、「指示等も含めすべて英語で授業が行われる」。「通学区域がなくなる」。

参加者：うれしい姿として、「教員がきめ細やかに対応できている」「学生一人ひとりに大人のメンターがつく」。

参加者：うれしい姿として、「高校の進学先として海外が当たり前になり、系列校であれば各国にあるキャンパスに学生が移動できる」。

参加者：「やり抜く力などの非認知能力が伸ばせている」。

参加者：子どもを中心とした、子どもが意見を言える環境づくりが進み、対話の時間を多く持ち、個性に応じた問題解決に取り組むべきだと考える人が多い。

参加者：子ども自ら学びたいと思える環境であってほしい。

- 参加者：個人主義が進む中でも、教育にはルールや倫理・規律が必要と考える人が多い。子どもの状況に寄り添いつつ、日本の良さを活かし、倫理、規律を大切にしながら、子どもの目線に立った教育が求められている。
- 参加者：子どもが国際人として立派な日本人になるためには、海外の人に対して日本について説明できることが重要な要素である。海外で日本人としてのアイデンティティを語れず、帰国後に学び直す人も多い。大人がその重要性を認識し、子どもに日本人としての自分や日本という国について教えて、国際人を育てるべき。道徳が日本人の良さであり、教育を通じて伝えることが重要だと考える。
- 参加者：子どもが自分の根を持つことは重要であり、日本人としての価値観を理解することで、国際感覚が育まれる。
- 参加者：神社での巫女舞の経験から、「和」の精神に日本の道徳があると感じた。個性的な子どもたちも、興味のあることには協力して取り組む姿が見られる。
- 参加者：日本の歴史や文化を学ぶ機会が不足しており、多くの人が個々人に注目している。外国人が増える中で、ルールを守らない例もあり、道徳観だけでは対応しきれない面もある。日本では「和」が大切である。海外では自国について問われることが多く、日本人として日本を語れないと違和感を持たれるため、国際人として活躍するには日本を理解しておく必要がある。将来、日本の伝統や文化、倫理観を理解した子どもたちを育てたいと考えている。
- 参加者：個人の進捗に応じて課題が進み、教育者が不在である環境では、人間性の教育が行われず、学校の枠組みから外れてしまう。人間性の教育には、興味を持って主体的に取り組むことが重要であり、協力することを知る、仲良くしたいから悪口をやめるといった経験や、災害時のような脅威を通じて、道徳観・倫理観が育まれると考える。
- 参加者：今の子どもたちはパーソナルスペースを重視し、2040年には他者への配慮が失われる懸念がある。自分だけで完結する人が増える中で、他者を尊重する姿勢があつてこそ、真の国際人が育つ。
- 参加者：日本人とは何かということや、道徳観・倫理観が欠如した結果、自分だけで完結してしまっているのではないか。国際人の話題に関連して、なぜ修学旅行の行き先がシンガポールなのか。
- 参加者：海外での日本人の功績を知るなら、台湾を勧めたい。日本人が台湾を安全に豊かにした歴史を知ることによって、子どもたちは日本に誇りを持てるようになる。子どもを国際人として育てるには、自国の歴史に対して胸を張って語れるようになることが重要であり、いじめの抑止にもつながるかもしれない。自虐的な教育ではなく、真の歴史を伝えることが必要である。
- 参加者：海外に行っても自国を誇れない人はいるが、それが必ずしも国際的な活躍を妨げるわけではない。日本を知って自信につながれるといいが、誇りだけにこだわる必要もない。
- 事務局：港区では国際理解教育を「言語・共生社会・伝統」の3本柱で進め、幼稚園からネイティブティーチャーを導入するなど段階的に教育を行っており、海外修学旅行はその集大成である。シンガポールは、時差や移動時間、安全面を鑑み

た上、多文化共生社会が存在するため選定した。2年目となる今年度は、生徒・保護者から肯定的な評価が多く、修学旅行前後の意識変容を効果測定した結果、国際人としての意識が高まったという意見が見られた。

## (2)第2ラウンド 2040年から2025年の港区民へのメッセージ

### (主な意見等)

- 参加者：グローバルな環境を整える。若いうちから外国に行って勉強したほうが良い。海外を経験してほしい。自身の経験から、海外への修学旅行の効果を感じている。
- 参加者：人間力について、海外でAI将来を相談していた若者が自殺してしまった事例があった。教員もAIに変わる時代がくるかもしれない。AIとの付き合い方を工夫しないとAIに飲み込まれてしまう。0～6歳も1日平均2時間配信動画を観ているという話も聞いたので、AIの使い方を考えるべき。
- 参加者：教員の支援しつつ、人間だからこそ果たせることをきちんと実行するべき。
- 参加者：海外修学旅行よりも、港区に多くあるインターナショナルスクールとの交流の方が英語力や共生社会の理解に効果的ではないか。2040年にはAIの活用が仕事に直結することが想定されるため、教員の学習時間の確保が必要。道徳や倫理は学校教育だけでなく、家庭や地域コミュニティでも育まれるべき。
- 参加者：先生と生徒の関係性が重要であり、少人数のクラスで個々の生徒に焦点を当てるべき。小学生の頃から、生徒の興味に応じて現実の課題に取り組み、自ら解決策を考える力を育てることが望ましい。
- 参加者：受験のためではなく、子どもの興味を伸ばす教育が望ましく、大学入試も人間力を問う内容となることが理想的だと考える。AIを活用して基礎学力を高めつつ、学校では対話や協力スキルを伸ばす活動が重要である。9歳までは日本語教育に力を入れ、最低限の課題を決めた上で、自由な時間や好きなことに取り組みむ機会を持たせることも大切である。
- 参加者：教員の人気を高め、教員数を増加させ、子どもを支える体制を強化することが重要である。一方で、外国語教育に取り組まない選択肢もあると考えており、自国語の力を育成した上で、AIを活用して自ら考える力を育むことが効果的である。
- 参加者：学校は子どもの価値観や伝統文化を育む場としてしっかりした体制が必要。家庭教育を補えるよう、学校で道徳・倫理教育を徹底すれば、開かれた地域が維持できるのではないか。
- 参加者：学校が地域に開かれた姿へと変わり、様々な個性を持つ子がいる中でも、対話の時間や専門家のケアが導入されたことで、子どもたちは国際的な視点を持つようになっており、2025年の対策は功を奏している。
- 参加者：体力があるとよい。集団で学ぶ場があるとよい。
- 参加者：ルーマニアでは学校の先生は人気の職業である。
- 参加者：教員の業務の一部を民間企業に外注するのはどうか。生徒、教員、企業、区民など全員がよい方向へ進むとよい。

事務局：港区内の不登校生徒は約 300 名弱である。教員全員やりがいを持って働いているが、対応の難しさから挫折する人もいる。子どもとの関わりには充実感を感じる一方、保護者対応や安全管理などで、文書作成や遅い時間までの対応が必要になることもある。教育委員会は教員を支えるため、様々な取組を行っており、教員たちは子どもたちのため努力を続けている。

参加者：戦後教育から転換し、新しい教育になるとよい。

参加者：2020 年代の教育重視度が 2040 年の競争力に強く影響した。学びの楽しさを感じるのが遅れた国は競争力が低下。体を動かすことは道徳や倫理の学びにもつながるため、苦手な人ほど積極的に取り組むべき。

### 3 事務局より連絡

事務局より、第 1 回会議録の修正、第 3 回グループ会議と発表会の開催日時、開催場所、本日の会議のグラフィックレコードの確認方法についての案内がされた。また、第 3 回グループ会議に向けた資料発送、当日の会議の進め方の案内もされた。

(閉会)

リーダーが閉会を告げ、終了。